

桜井市 吉備遺跡

法華堂地区発掘調査報告書

昭和62年10月3日

桜井市教育委員会

序 文

国道165号線は、桜井市の中央部を東西に横切り、現代の「横大路」の役をはたしています。近年、特にこの道路沿いに、家屋が建ちはじめ、開発の波が大きく寄せてきました。

道路沿いには、西から黒田池遺跡・安倍寺遺跡・横内遺跡・谷遺跡と多くの遺跡が続いており、過去の何度も発掘調査で、縄文時代晚期から藤原京関連遺構までの遺構・遺物が、数多く出土しています。

このたび、吉備遺跡・法華堂地区で、グリーン・ホームセンター桜井店の新築工事に先立ち、桜井市教育委員会が発掘調査を実施しました。藤原京時代の井戸や建物が検出され、予想以上の成果を上げることができました。

発掘調査を実施するにあたり、関係者の皆様方の御協力を感謝するとともに、今後も桜井市教育委員会の文化財行政を、御援助いただきますよう、お願ひ申し上げます。

昭和62年10月3日

桜井市教育委員会

教育長 外 嶋 尚 春

例 言

1. 本報告書は、桜井市吉備字法華堂536番地における、グリーン・ホームセンター建設にともなう、埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査には、土地所有者・田口輝雄氏、工事を担当された村本建設KK、地元各位から多大なる御協力を得た。記して感謝の意とします。
3. 本報告書は、桜井市教育委員会社会教育課が編集を行ない、主任技師・清水真一が担当し、橋詰清孝が協力した。
4. 本報告書使用の北は磁北であり、レベル高は桜井市都市計画地図記載の海拔高を使用した。

目 次

序 文

例 言

目 次

第1章 遺跡の位置と環境.....	1
第2章 発掘調査に至る経過.....	2
第3章 発掘調査の結果.....	3
1節 検出された遺構.....	3
2節 出土した遺物.....	6
第4章 まとめ.....	7
調査参加者名簿.....	10

挿 図 目 次

挿図 1 遺跡分布図.....	1
挿図 2 遺跡周辺図.....	2
挿図 3 井戸 S E01遺構図.....	4
挿図 4 掘立柱建物 S B01と柱痕.....	5
挿図 5 出土遺物図 1	8
挿図 6 出土遺物図 2	9

図 版 目 次

図版 1 板枠井戸写真 1	11
図版 2 板枠井戸写真 2	12
図版 3 掘立柱建物写真.....	13
図版 4 出土遺物写真.....	14
図版 5 井戸枠板材写真.....	15
図版 6 井戸枠板材他写真.....	16

第1章 遺跡の位置と環境

桜井市の南西部、寺川と米川にかこまれた冲積平野上には、数多くの遺跡があり、古くから発掘調査が実施してきた。

安倍寺遺跡（挿図1-1）は、国史跡・安倍寺を中心とした集落遺跡で、古墳時代～中世につづく集落を調査している。昭和40年に安倍寺周辺にともなう発掘調査を実施して以来、二階堂・アマダレ・花園・ヲビシ・知原地区などの調査が、次々と実施されている。^{註1 註2 註3 註4 註5 註6}

吉備遺跡（挿図1-2）は、昭和60年に岡崎地区の調査が実施され、弥生時代後期の自然河道と、藤原京期とみられる掘立柱建物が検出されている。^{註7}

黒田池遺跡（挿図1-3）は、大角地区で3次にわたり調査され、藤原京時代の道路遺構と、掘立柱建物群を検出した。^{註8}

谷遺跡（挿図1-4）では、六ノ坪地区で、奈良時代に下る建物と井戸遺構を調査している。^{註9}これらの近年の調査から、この地域が比較的早くから開発され、西側は、藤原京時代にはその東端になっていた可能性がある。

註1 「安倍寺遺跡環境整備事業報告－発掘調査報告書」

桜井市 1970

2 昭和57年・桜井市教委が発掘調査を実施した。報告未刊

3 「桜井市・阿部雨ダレ遺跡発掘調査概報」権原考古学研究所 昭和58年度概報

4 昭和60年・権原考古学研究所が発掘調査を実施した。報告印刷中

5 「桜井市安倍寺遺跡ヲビシ地区発掘調査報告書」桜井市教育委員会 1986

6 「桜井市安倍寺遺跡知原地区発掘調査概要」桜井市教育委員会 1986 (パンフ)

7 「桜井市吉備遺跡岡崎地区発掘調査概報」桜井市教育委員会 1986

8 昭和58～60年にかけ、桜井市教育委員会が調査を実施した。報告未刊

9 「桜井市・阿部六ノ坪遺跡発掘調査概報」権原考古学研究所 昭和57年度概報



図1 遺跡分布図

第2章 発掘調査に至る経過

昭和61年11月、田口輝雄氏から、桜井市吉備536番地における、土木工事に伴う文化財保護法57条の2が提出され、協議の結果、発掘調査を実施することとなった。

当該地は、すでに材木置場として、2m以上の盛土がなされていたために、敷地の北側の擁壁建設に伴う部分を、発掘調査することとし、工事担当の村本建設と細部について協議をした。この結果に基づき、昭和62年1月に文化財保護法98条の2を提出し、昭和62年1月16日から発掘調査を実施し、同20日に現地調査を終了した。

その後、出土遺物の整理を3月～9月にかけ行い、報告書は9月末に校了した。

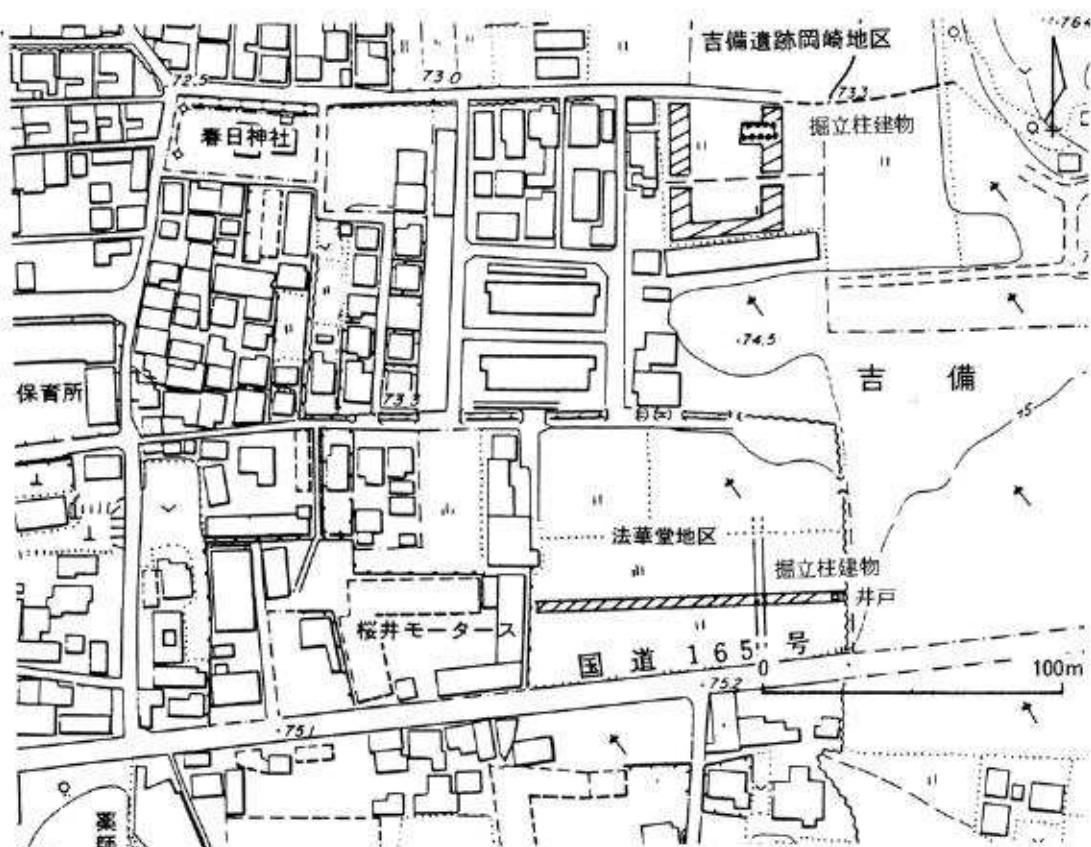


図2 遺跡周辺図

第3章 発掘調査の結果

第1節 検出された遺構

発掘調査は、敷地内北側を、南北1.5m幅で東西100mにわたり、ユンボで水田耕作土を除去した。30cmほど掘り下げたところ、遺構が検出された。

トレント東端は、農業用水路の西肩に及んだが、西肩部分で井戸を一基検出した。さらに、井戸東端から18m西の地点で、掘立柱の掘形を3個（うち柱痕残っているもの1本）を検出した。さらにその西側は、埋土の際にゴミ等を入れた穴が地山部分に達しており、湧水にも悩されて遺構の検出には至らなかった。

（1）井戸（SE01）（挿図3 図版1・2）

井戸SE01は、トレント最東端に位置し、東端は用水路西肩で破壊されていた。掘形は、東西2.5m以上・南北2.0mの長方形である。掘形のはば中央部に、東西75cm・南北53cmのやや長方形に、4枚の大きな板が、中とじ状に組み合わせてあった。西板については、ホゾが切ってあり、他の用材を転用した可能性がある。残りの良い西板は、長さ130.0cmあり、実際はもっと長い一枚板であったことがわかる。厚みは3.6cmあった。

この4枚の板材で枠を作った井戸であるが、特筆すべきことは、北と南の板に3cm大の方形のホゾ穴が作られており、長さ1.0m強、幅5cmほどの角材が、つっかい棒として使用されていた。上から25cmの所と、その下1.5mの2ヶ所で、東西に4本入れられるはずが、西上部分ははじめから存在していなかった。さらに、この4枚の板材で組み合わされた井戸枠の外側底には、河原石を敷いて、板押えを施していた。このような例は、非常に珍しい。

井戸内は、上層に細砂が、下層には青灰色の粘土が堆積していたが、底には須恵器甕1・俵形甕1と、土師器甕3・壺1がすべて破損された状況で検出された。大型甕は2個とも把手付甕である。

（2）掘立柱建物（SB01）（挿図4 図版3）

トレント東端を0として、西へ19~21mの間に、方形の掘形を3個検出した。北東のP1は半分しか検出できなかったが、東西0.5m・南北0.3m以上・深さ0.06mである。南東のP2は、東西0.7m・南北0.8m・深さ0.11mで、中央部に径0.2mの柱痕穴が残る。南西のP3は、東西0.7m・南北0.5m以上・深さ0.12mで、中央部に径0.2mの柱痕が、73cm分残っていた。底部は尖ってなく平坦であるため、杭材ではない。P1~P2間は約1.6m、P2~P3間は2.1mある。建物の方位は、磁北から1°30'西に寄っており、真北から8°西へ偏っている。柱掘形から出土遺物はなかったが、SE01と関連する建物と考えられる。また、柱掘形がわずか10cm内外しか残っていないことは、その上層で素掘溝を確認できなかったことと重ねて考えると、奈良時代以後の土層が大きく削り取られている可能性が強い。すぐ北に位置する岡崎地区でも、素掘溝はわずかしか残っていなかったことから、その範囲は吉備池から横内あたりにかけて広がるのではなかろうか。

コンクリート

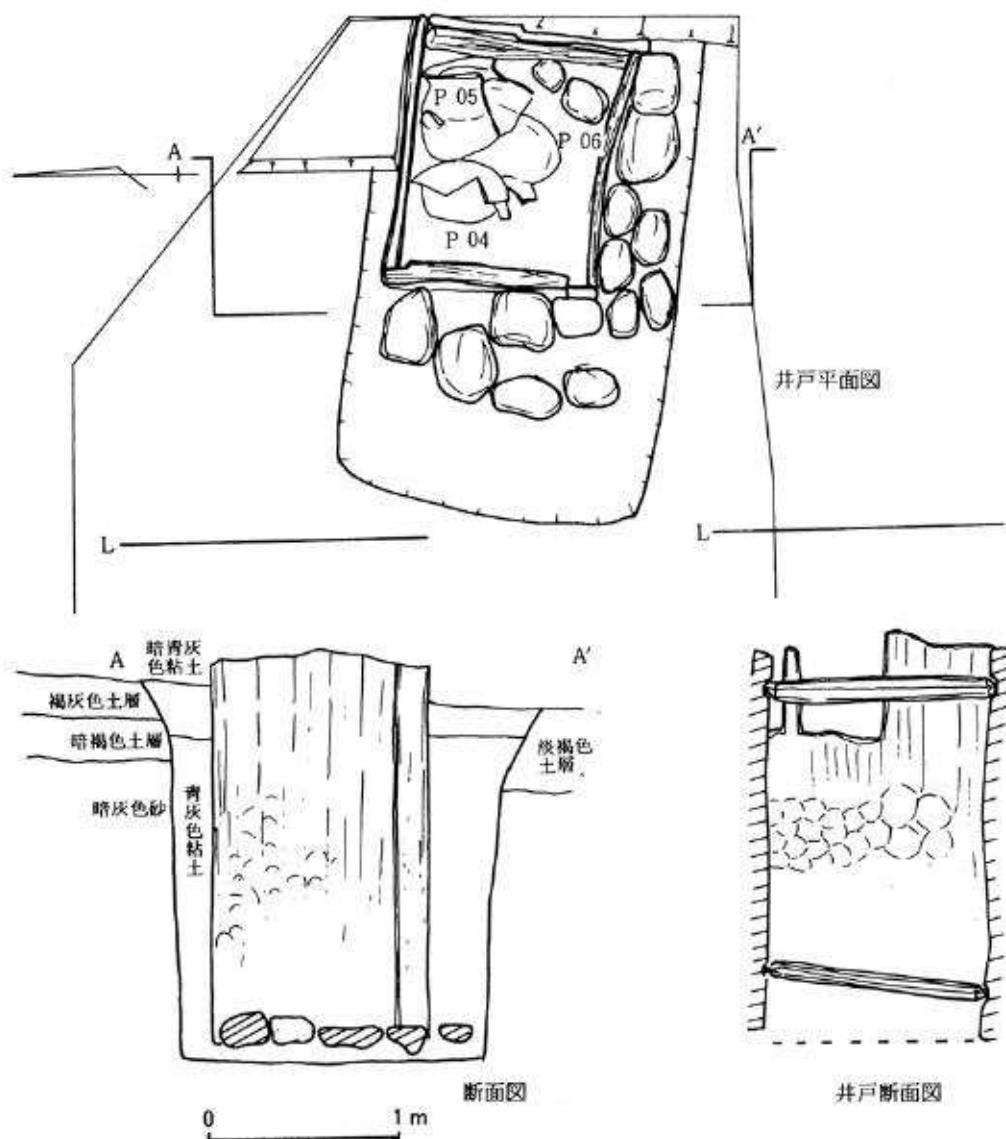


図3 井戸S-E01造構図

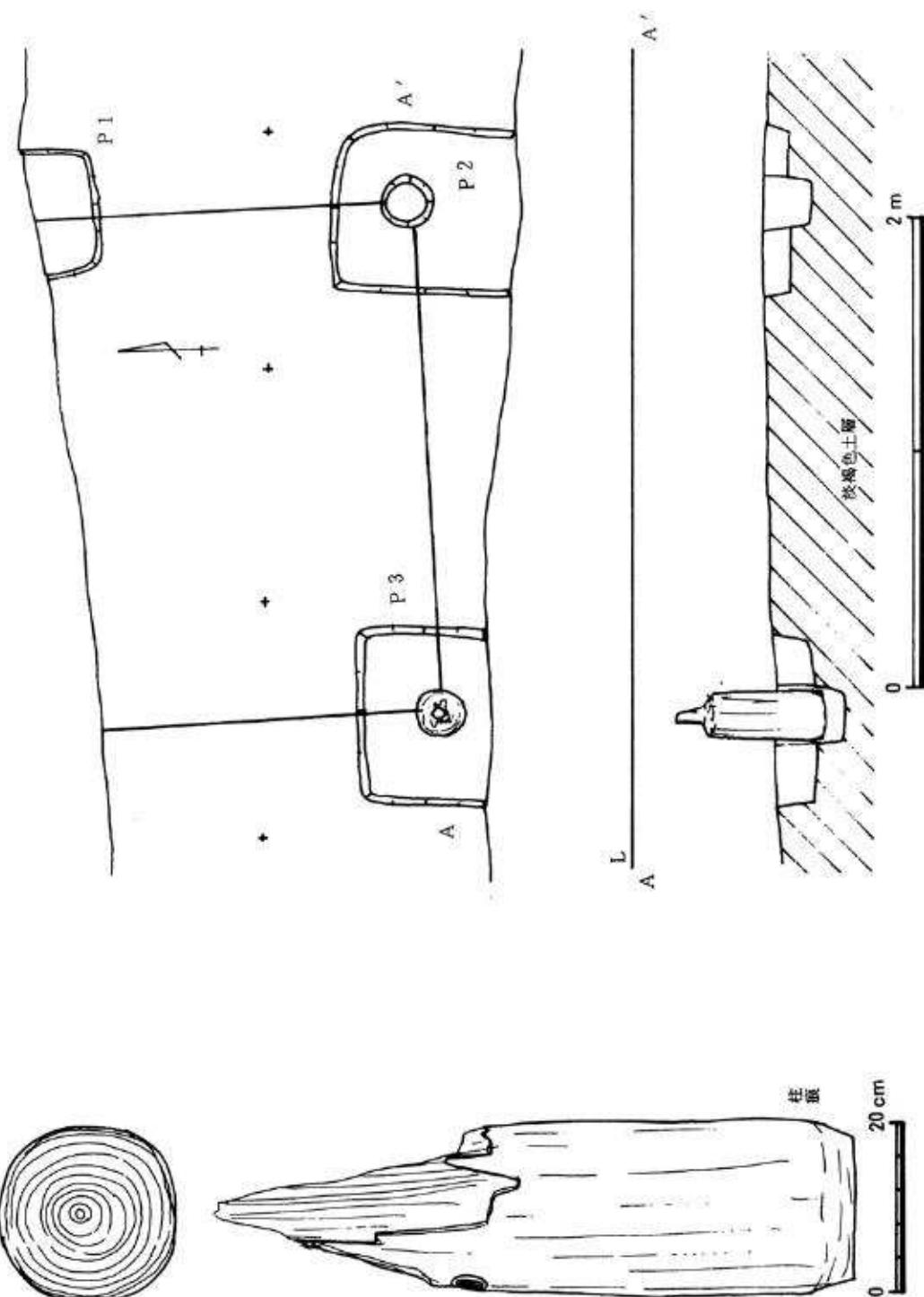


図4 掘立柱建物S-B01と柱痕

第2節 出土した遺物

出土した遺物の大半は、井戸SE01にかかわるものである。

井戸底には、須恵器把手付甕（Po4）と俵形壺（Po6）、土師器把手付大甕（Po5）・小型甕（Po2）（Po3）と坏（Po1）があった。

Po6が下に、Po5が上にあり、Po1～Po3が破片でちらばっていた。Po4はPo6の下にはじめから半分の破片で入っていた。

須恵器把手付甕 Po4は、口径29cm・把手端の最大径は35.4cm、高さ26cmある。底部は10cmほどの平底。口縁部はくの字にわずかに外反している。把手は厚み1.6cmあり、上付きにつけられている。外面は、胴部叩き目をヨコ方向にナデ消ししており、底部はタテ方向のナデ仕上げ。内面は、口縁部ヨコナデ、胴部上半タテのユビナデ、下半ナデ仕上げ。胎土硬くしまっており、焼成良好である。色調は青灰色。

俵形壺 Po6は、最大胴径36cm、最小胴径24cm、高さ27cm以上で、口縁部を欠く。頸径部10cmある。胴部外面は、ヨコ方向の叩き目を、あらくタテ方向の回転ナデで消している。表面にデコボコの凹凸が多い。厚みは、1cm以上の厚みをもち、重量感がある。内面は青海波叩き、胎土、焼成良好である。色調は青灰色。

土師器把手付大甕 Po3は、口径28.8cm、把手部最大径40cm、器高30.5cmある。大きく外反する口縁部をもち、端部内側はわずかに内傾する。底部は丸底で、最大径がやや下部に位置する。外面は、口縁部タテハケ、頸部ユビ押え、胴部タテ方向のあらいハケ仕上げ。内面は、口縁部ヨコハケ、胴上半部ヨコナデ、胴下半部タテケズリで、ユビ押えがつく。色調は褐灰色で、胎土焼成良好である。

土師器甕 Po2は、口径15cm、胴部最大径15cm、器高11.6cmある。口縁部外反するやや胴長の丸底の器形をとる。外面タテのハケ仕上げ、内面は口縁部ヨコハケ、胴部かすかなヨコハケと底部にユビ押圧、外面にススが多くつく。胎土・焼成良好・黒褐色の色調をもつ。

土師器小型甕 Po3は、口径12cm、胴部最大径11.8cm、器高7.2cm。わずかに外反する、やや胴長の平底に近い丸底、内外面ヨコナデ仕上げ。胎土・焼成良好、色調褐灰色である。

土師器坏 Po1は、口径14.4cm、器高4.0cmある。口縁はわずかに内傾し、かすかな凹みがつく。外面は口縁部はヘラミガキ、底部はユビナデの上に何本かのミガキ痕がつく。内面は回転ナデ仕上げ。胎土焼成良好、色調は明褐色。

この他に、自然遺物として、井戸枠板材と種子がある。

井戸枠板材は、4枚の平板と、3本の角材で構成されている。北側の板材は、長さ130cm以上、幅70cmで、厚み3.6cmある。板材内面側には4ヶ所のホゾ穴（5cm四方）が掘られているが、左上の部分はこわれている。また、板材下部は、長さ8cmが一段削られており、厚みは1.5cmしかない。

井戸枠としてはこのような細工は不用で、他の三枚も細工はされていないため、この板材だけ他の用材を転用していると考えられる。木目の観察から、板目材であることがわかる。材の同定は行っていないが、赤味のきめの細かい木目から、栗材の可能性が高い。下部は細かい長刃のはつり部分がみられるが、上部は磨滅のためかよく残っていない。他の板材もほとんど同様の特徴をもつ。

つっかい棒は、下部2本と上部1本の三本残っていた。南北方向につっかいをしている。平均長さ60cmで、一辺5cmの角材で、二面を長斧ではつっているが、他面は割ったままの状況である。

種子は、野性桃の核とみられ、合計20個を採集した。藤原京時代の井戸や道路側溝・溝等から、同様の桃核が多くみられるところから、道教祭祀的な用いられ方をしただろう。

第4章 まとめ

昭和62年の嚴冬期の、短期間の発掘調査ではあったが、予想をはるかに超えた成果を上げることができた。

桜井市内での、飛鳥～奈良時代の井戸の調査は、昭和56年・纏向遺跡巻野内ババキ地区で奈良時代終りの板枠井戸の検出が最初である。^{註10} 昭和57年には、谷遺跡六ノ坪地区で藤原京時代の板枠井戸が、^{註9} 昭和61年にも、大福遺跡黒田地区で藤原京時代の曲物枠井戸が検出されていた。今回の藤原京時代の板枠井戸で4例目になる。纏向遺跡を除く3例は、いずれも市内西部にかたよっており、他の藤原京時代の遺構のあり方と共通する。大福遺跡での掘立柱建物群と道路遺構の存在、安倍寺遺跡でも掘立柱建物を検出しておらず、吉備遺跡岡崎地区の掘立柱建物・黒田池遺跡大角地区的道路遺構と掘立柱建物群の発見は、中津道以東の桜井市内にも多くの遺構群が存在することを、私たちに教えてくれる。これらの遺構が、藤原京の範囲が拡大される資料になる可能性を持つことを、私たちは考えている。

この地域は、桜井市内でも最近急速に開発の波が押し寄せている地域で、国道165号線沿いに多くの商店・遊技場・工場が、雨後のタケノコのごとく建築ラッシュである。1300年前、当時の都の東端・もしくは東の郊外であったこの地域の特殊性を考えて、私たち桜井市民は、もう少し計画性のある街作りを考えねばならない時が来ているのではなかろうか。

報告書作成中の、昭和62年7月7日、岡山県小田郡矢掛町の、吉備真備公顕彰会の方々が大型バスにゆられ、はるばる桜井市吉備に見学に来られた。吉備真備公ゆかりの地をたずねての旅である。私たちの桜井市には、こういった人々を受け入れる余地が、まだまだ不足していることを痛感し、吉備遺跡にとどまることなく、市内のすべての遺跡を、他府県・他市町村の方々に、胸を張って案内できるよう、その活用を大いに考えて行きたいと念願している。

註10 「纏向遺跡昭和56年度遺跡範囲確認発掘調査概報」桜井市教育委員会 1981

11 「桜井市大福遺跡・西之宮黒田地区発掘調査報告書」桜井市教育委員会 1987

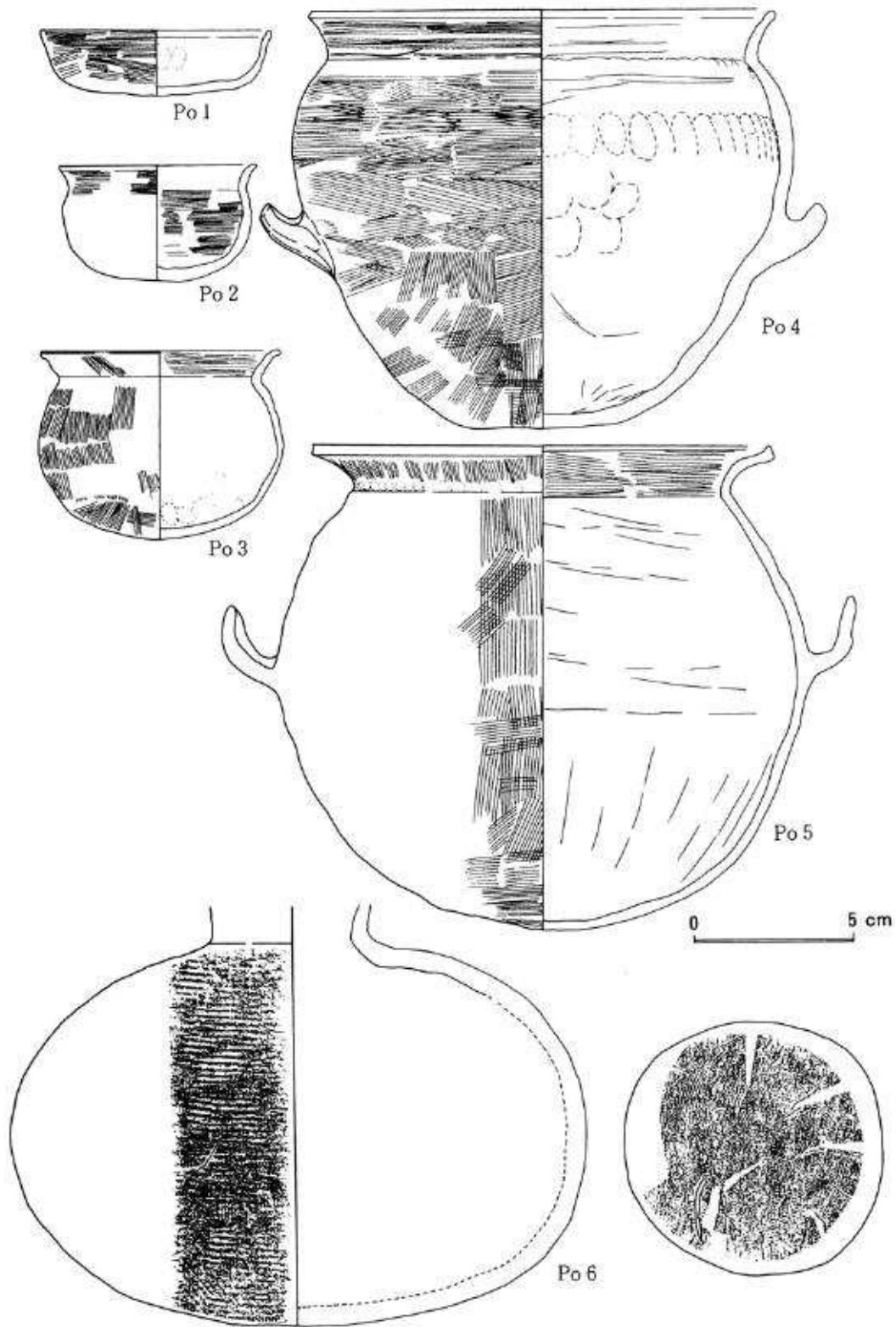


図5 出土遺物図1

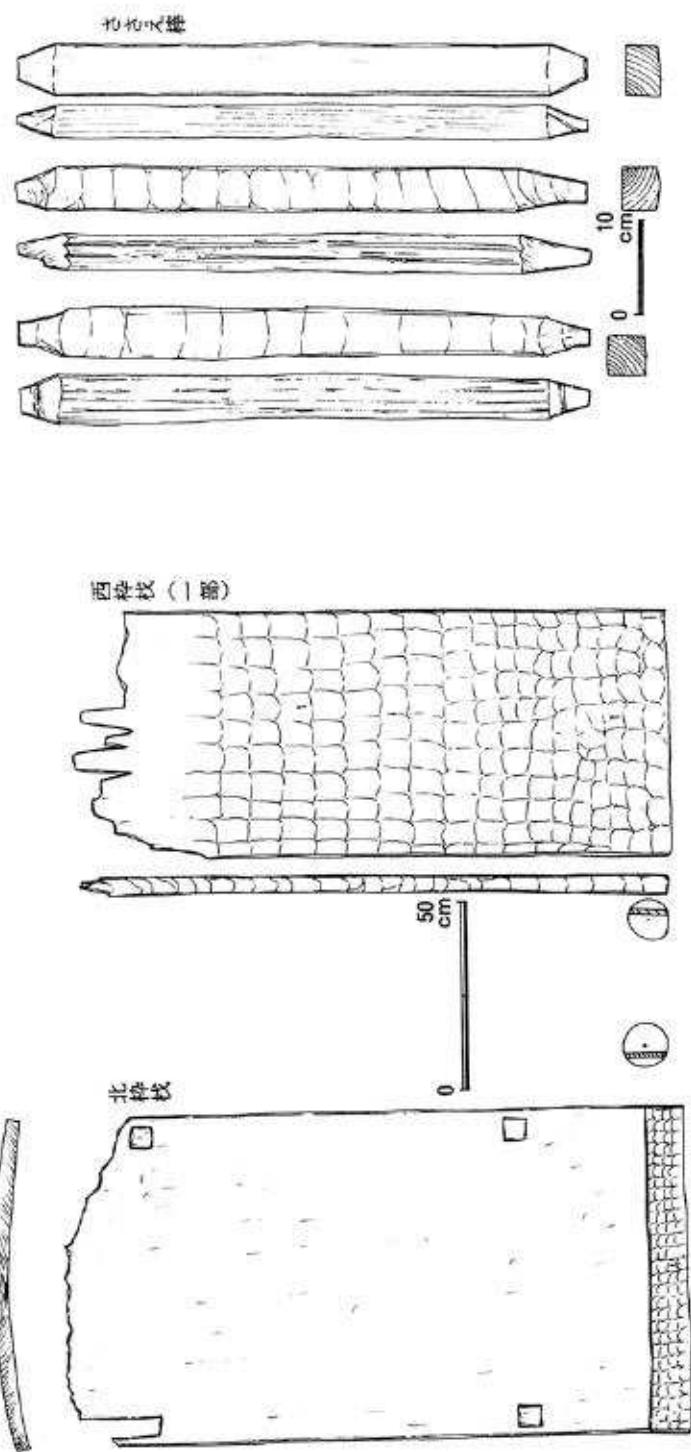


図6 出土遺物図2



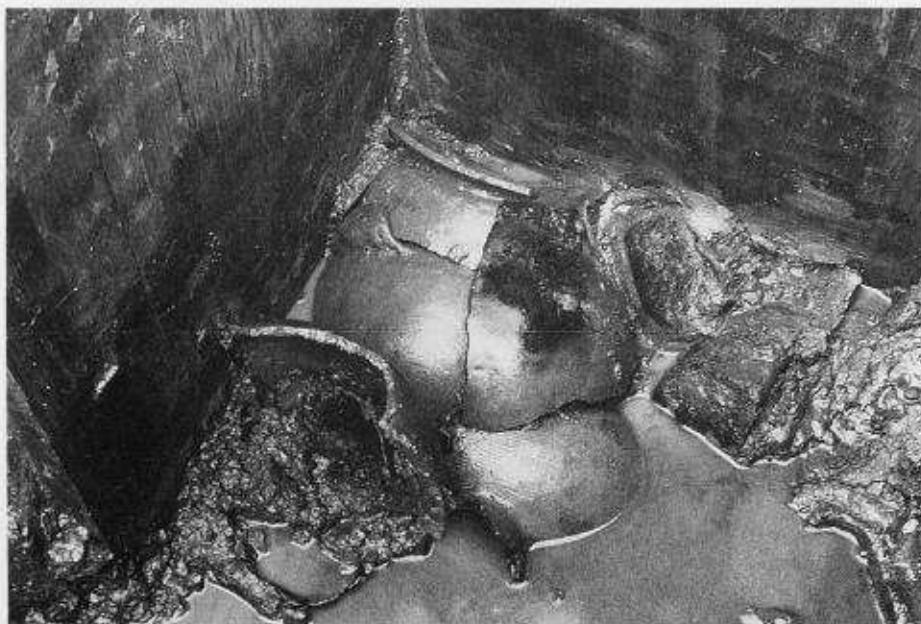
写真 発掘調査風景（左は国道165号線）

調査関係者名簿

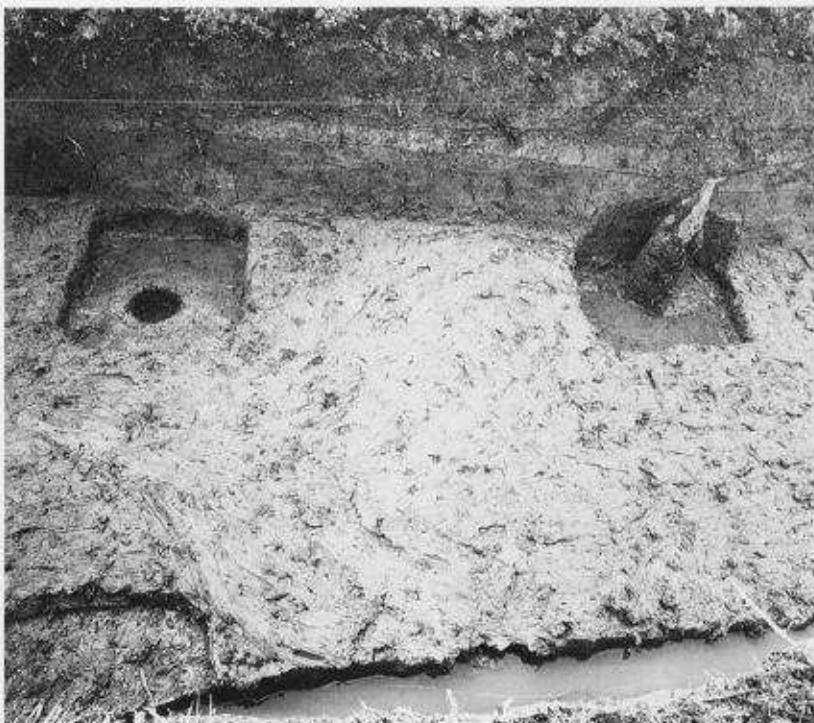
青木 久子・池崎庄次郎・小島 弘美・小山 剛・西条 利男・清水 真一・内藤 新治
萩原 儀征・橋詰 清孝・平岡 高雄・藤井 妙子・藤田佳寿美・松田 有司・増田 義雄
森田 悅弘・柳橋 桂子・山本 幸一・山本三代子



(上)西から (下)西から・下のつめられた河原石



(上)井戸内部（西から）（下）内部の土器出土状況



(上) 北から (下) 南から



Po.1



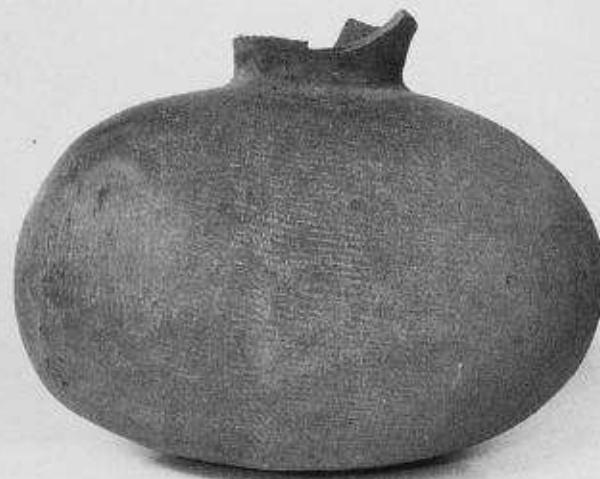
Po.3



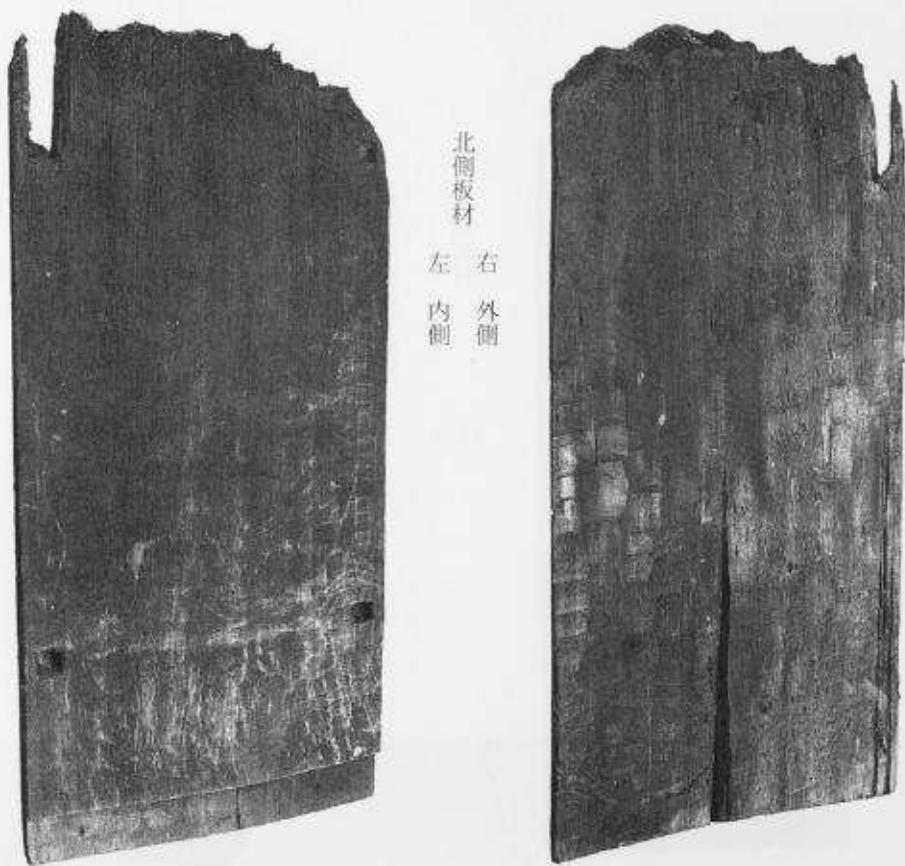
Po.2

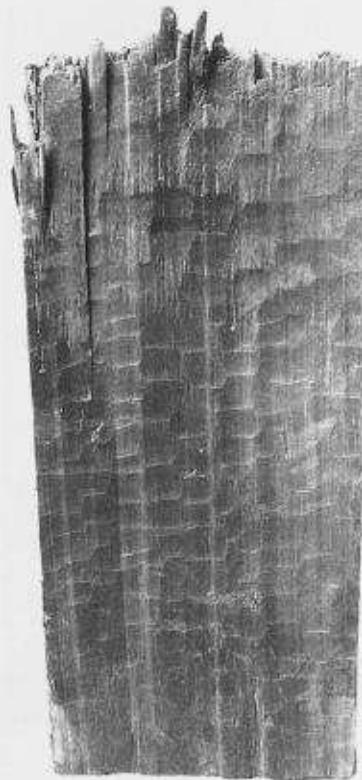


Po.4



Po.6





西側板材



掘立柱建物・柱材

井戸枠ささえ棒



桜井市 吉備 遺跡 法華堂地区
発掘調査概報

昭和62年10月3日 印刷
昭和62年11月30日 発行

発行 桜井市教育委員会
桜井市粟殿202
TEL 07444-5-0962

印刷 明新印刷株式会社
奈良市橋本町36
TEL 0742-23-3131